

鹿屋市備蓄計画

鹿児島県鹿屋市

令和6年3月

目 次

1 はじめに	1
2 備蓄計画策定に係る考え方	
(1) 備蓄物資支給対象者	1
(2) 備蓄目標	1
(3) 備蓄品目及び備蓄数量	2
3 整備（購入）計画	11
4 家庭内備蓄について	11
5 企業内備蓄について	12
6 流通備蓄について	12
7 救援物資について	13
8 備蓄倉庫について	
(1) 集中備蓄倉庫	14
(2) 分散備蓄倉庫	14

1 はじめに

鹿屋市では、従来から災害発生時における備蓄品として、食料品などを一定量備蓄してきた。しかしながら、近年の頻発する大規模災害に備え、鹿屋市地域防災計画に基づき、今後の備蓄のあり方等に係る基本的な方針を示すため「鹿屋市備蓄計画」を策定する。

鹿屋市の備蓄計画においては、自助・共助の考え方を基本とし、市民による日頃からの家庭内備蓄を推進するとともに、流通業界等からの流通備蓄などを活用するなど市民、企業、行政が一体となり、日頃からの備えや災害時に適切な対策を講ずることを目標とする。

なお、この備蓄計画の期間は、新たな地震等災害被害予測調査結果や課題が生じた場合には、その都度検討を加え、修正するものとする。

2 備蓄計画策定に係る考え方

(1) 備蓄物資支給対象者

備蓄物資支給対象者については、「鹿児島県地震等災害被害予測調査（平成25年度）」の中で、鹿屋市に最も大きな被害をもたらすものと想定される種子島東方沖地震が冬の深夜に発生した避難所避難者数想定結果に基づいて算出された避難者とし、避難者が最大となる被災7日後の避難所避難者数を基準とする。

なお、食料・水・毛布に関しては避難所外避難者（在宅避難者・帰宅困難者等）需要に備えるために、避難所避難者数に1.2を乗じるものとする。

避難所避難者数 = 1,600人

備蓄物資支給対象者 = 1,600人×1.2 = 1,920人

表1 避難所避難者数想定結果【種子島東方沖地震】（冬：深夜）

区名	被災1日後 避難所避難者数	被災7日後 避難所避難者数	被災1ヶ月後 避難所避難者数
人数	860人	1,600人	510人

(2) 備蓄目標

災害発生後3日目以降に流通備蓄や救援物資が到着するとの想定のもと、備蓄物資支給対象者に配付する食料及び水、生活必需品などの物資を3日分備蓄する。

必要量については、備蓄品目ごとに年代や性別を考慮して算定する。

区分	割合	備考
3歳から89歳までの方	95.02%	アルファ化米、クッキー
1歳、2歳及び90歳以上の方	4.13%	アルファ化米（おかゆ）
乳幼児0歳	0.85%	ミルク、哺乳瓶
乳幼児0歳から3歳までの方	2.80%	紙おむつ（子供用）
要介護度3以上の方	2.36%	紙おむつ（大人用）
10歳から55歳までの女性の方	24.56%	生理用品

※男女別・年齢別 住民基本台帳人口及び要介護度3以上人口（第1号被保険者数及び要介護（要支援）認定者数）に基づき算定

（3）備蓄品目及び備蓄数量

備蓄の品目については、食料や水、水容器・哺乳瓶・紙おむつ等の生活必需品、照明器具や発電機等の資器材、マスクや消毒液等の衛生用品など下記の物品を備蓄する。

項目	備蓄品目	備蓄目標
①食料及び水	1 栄養補助食品(クッキー)	5,500食
	2 アルファ化米	11,000食
	3 アルファ化米（おかゆ）	750食
	4 粉ミルク	50箱
	5 水（2ℓ入りペットボトル）	6,000本
②生活必需品	1 哺乳瓶（使い捨てタイプ）	250本
	2 紙おむつ（子供用）	1,300枚
	3 紙おむつ（大人用）	850枚
	4 生理用品	1,800枚
	5 トイレ処理セット	27,500個
	6 トイレトッパー	1,600ロール
	7 毛布	2,000枚
	8 マット	2,000枚
③資器材	1 簡易間仕切り（住居用）	270セット
	2 簡易間仕切り（授乳・更衣室用）	135セット
	3 投光器	26台
	4 発電機	25台
	5 多機能照明器具	260個
④-1 衛生用品（衛生管理）	1 サージカルマスク	6,500枚
	2 体温計（非接触型）	66個
	3 アルコール手指消毒液（ポンプ式）	264個

項目	備蓄品目		備蓄目標
	4	共用部分消毒液（スプレー式）	264 個
	5	消毒液（補充用）	132 個
	6	手洗い用せっけん	198 個
	7	ペーパータオル	600 箱
	8	床清掃モップ	132 本
	9	ゴム手袋	3,960 枚
④-2 衛生用品（感染症予防）	1	フェイスガード	198 個
	2	防護服（ディスポウェア）	594 着
	3	ゴム手袋	1,188 枚
	4	シューズカバー	24 箱

①食料及び水

(ア) 栄養補助食品(クッキー)

5年以上の長期保存が可能で、栄養価が高く、容易に食べられる栄養補助食品(クッキー)を備蓄する。

なお、食物アレルギー特定原材料等27品目を含まない製品の備蓄に努める。

【対象者】

3歳から89歳までの方

【備蓄目標】

災害発生日から3日目までの9食分のうちの3食分を備蓄する。

$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 95.02\% \times 3 \text{ 食分} = 5,473 \text{ 食} \quad \approx \quad 5,500 \text{ 食}$

(イ) アルファ化米

主食の米飯に近く、5年以上の長期保存が可能で、調理器具や食器を必要とせずに食べられるアルファ化米を備蓄する。

なお、白米だけでなく様々な味の製品を備蓄するとともに、食物アレルギー特定原材料等27品目を含まない製品の備蓄に努める。

【対象者】

3歳から89歳までの方

【備蓄目標】

災害発生日から3日目までの9食分のうちの6食分を備蓄する。

$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 95.02\% \times 6 \text{ 食分} = 10,946 \text{ 食} \quad \approx \quad 11,000 \text{ 食}$

(ウ) アルファ化米(おかゆ)

幼児や高齢者、体調不良者を対象に、5年以上の長期保存が可能なアルファ化米(おかゆ)を備蓄する。

なお、白粥だけでなく様々な味の製品を備蓄するとともに、食物アレルギー特定原材料等27品目を含まない製品の備蓄に努める。

【対象者】

1歳、2歳の幼児及び90歳以上の高齢者

【備蓄目標】

災害発生日から3日目までの9食分を備蓄する。

$$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 4.13\% \times 9 \text{ 食分} = 714 \text{ 食} \quad \div \quad 750 \text{ 食}$$

(エ) ミルク

乳幼児を対象に、粉ミルクや液体ミルクを備蓄する。

なお、アレルギー対応粉ミルクについては、家庭内で備蓄することを広報するとともに、必要に応じて流通備蓄で対応する。

【対象者】

0歳の乳幼児

【備蓄目標】

1日に5回とし、災害発生日から3日目までの15回分を備蓄する。

1回当たり200ml（粉ミルク換算で26g）として、1日に5回（粉ミルク換算130g）とする。

※粉ミルク1箱（スティックタイプ13g×10本入り）

$$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 0.85\% \times 1 \text{ 箱/日} \times 3 \text{ 日分} = 49 \text{ 箱} \quad \div \quad 50 \text{ 箱}$$

(オ) 水（2ℓ入り）

5年以上の長期間保存が可能な水（ペットボトルタイプ2ℓ入り）を備蓄する。

なお、鹿屋市水道事業ビジョン（経営戦略）に基づき、給水車等による応急給水も利用することとする。

【対象者】

全員

【備蓄目標】

1日に1本とし、災害発生日から3日目までの3本を備蓄する。

$$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 3 \text{ 本} = 5,760 \text{ 本} \quad \div \quad 6,000 \text{ 本}$$

②生活必需品

(ア) 哺乳瓶（使い捨てタイプ）

消毒不要で、開封後すぐに使用できるものを備蓄する。

【対象者】

0歳の乳幼児

【備蓄目標】

1人当たり1日5本として3日分を備蓄する。

$$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 0.85\% \times 5 \text{ 本} \times 3 \text{ 日分} = 245 \text{ 本} \quad \div \quad 250 \text{ 本}$$

(イ) 紙おむつ (子ども用)

子どもの年齢や体形に合わせておむつのサイズも考慮して備蓄する。

【対象者】

0歳から3歳までの乳幼児

【備蓄目標】

1人当たり1日8枚として3日分を備蓄する。

$$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 2.80\% \times 8 \text{ 枚} \times 3 \text{ 日分} = 1,290 \text{ 枚} \quad \div \quad 1,300 \text{ 枚}$$

(ウ) 紙おむつ (大人用)

対象者の体形に合わせておむつのサイズも考慮して備蓄する。

【対象者】

要介護度3以上の方

【備蓄目標】

1人当たり1日6枚として3日分を備蓄する。

$$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 2.36\% \times 6 \text{ 枚} \times 3 \text{ 日分} = 816 \text{ 枚} \quad \div \quad 850 \text{ 枚}$$

(エ) 生理用品

湿気などの影響を受けない長期保存が可能な製品の備蓄に努める。

【対象者】

10歳から55歳までの女性の方

【備蓄目標】

4週間に1回として換算し、1人当たり1日5枚として3日分を備蓄する。

$$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 24.56\% \times 5 \text{ 枚} \times 3 \text{ 日分} \div 4 = 1,768 \text{ 枚} \quad \div \quad 1,800 \text{ 枚}$$

(オ) トイレ処理セット

断水等でトイレが使用できないことを想定して、避難所の既存の便器に便袋を被せて使用する便器取付タイプとし、抗菌性凝固剤と回収袋がセットになったものを備蓄する。

【対象者】

紙おむつ使用者を除く全員

【備蓄目標】

1人当たり1日5回として3日分とし、紙おむつ支給対象者を差し引いた数を備蓄する。

$(1,600 \text{ 人} - 82 \text{ 人}^{\text{①}}) \times 1.2 \times 5 \text{ 個} \times 3 \text{ 日分} = 27,324 \text{ 個} \quad \div \quad 27,500 \text{ 個}$

- ① 紙おむつ（子ども用）使用者：44.8 人（1,600 人×2.80%）
紙おむつ（大人用）使用者：37.76 人（1,600 人×2.36%）

（カ）トイレトーパー

湿気などの影響を受けない長期保存が可能な製品の備蓄に努める。

【対象者】

全員

【備蓄目標】

1 人当たりの使用量を 1 回 3m として換算し、1 日 5 回の 3 日分を備蓄する。

$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 3 \text{ m} \times 5 \text{ 回} \times 3 \text{ 日分} \div 5 \text{ 5 m} = 1,571 \quad \div \quad 1,600 \text{ ロール}$

（キ）毛布

圧縮パックされた製品の備蓄に努める。

【対象者】

全員

【備蓄目標】

1 人当たり 1 枚として備蓄する。

$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 1 \text{ 枚} = 1,920 \text{ 枚} \quad \div \quad 2,000 \text{ 枚}$

（ク）マット

折りたたみ式などコンパクトに収納できるタイプの備蓄に努める。

【対象者】

全員

【備蓄目標】

1 人当たり 1 枚として備蓄する。

$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 1 \text{ 枚} = 1,920 \text{ 枚} \quad \div \quad 2,000 \text{ 枚}$

③ 資器材等

（ア）簡易間仕切り（居住用）

体育館等の避難所でプライバシーを確保するためパーティションを備蓄する。

また、感染症対策時の体調不良者等の分離用としても併用する。

【対象】

○通常時：拠点避難所で使用

○感染症対策時：一次及び二次避難所で使用

【備蓄目標】

一次及び二次避難所を対象に避難所当たり 10 セットとして備蓄する。

$$(13 \text{箇所} + 14 \text{箇所}) \times 10 \text{セット} = 270 \text{セット}$$

(イ) 簡易間仕切り（授乳・更衣室用）

避難所での授乳や更衣時のプライバシー確保のため屋根付きのパーテーションを備蓄する。

また、感染症対策時の体調不良者等の分離用としても併用する。

【対象】

○通常時：拠点避難所で使用

○感染症対策時：一次及び二次避難所で使用

【備蓄目標】

一次及び二次避難所を対象に避難所当たり 5 セットとして備蓄する。

$$(13 \text{箇所} + 14 \text{箇所}) \times 5 \text{セット} = 135 \text{セット}$$

(ウ) 投光器

停電時の避難所で広範囲を照らすLED投光器（三脚付）を備蓄する。

【対象】

避難所のうち一次及び二次避難所に配備

【備蓄目標】

避難所当たり 1 台として備蓄する。

$$(12 \text{箇所}^{\text{①}} + 14 \text{箇所}) \times 1 \text{台} = 26 \text{台}$$

① 一次避難所 13 箇所のうち輝北ふれあいセンターは太陽光蓄電池で対応

(エ) 発電機（携行燃料缶及びカセットガスを含む）

停電時の避難所で、照明器具や携帯電話などの電子機器の電源としてインバーター内臓の発電機を備蓄する。

なお、燃料となるガソリンやカセットガスについても備蓄する。

【対象】

避難所のうち一次及び二次避難所に配備

【備蓄目標】

避難所当たり 1 台として備蓄する。

$$(11 \text{箇所}^{\text{②}} + 14 \text{箇所}) \times 1 \text{台} = 25 \text{台}$$

② 一次避難所 13 箇所のうち輝北ふれあいセンターは太陽光蓄電池、吾平振興会館は既設発電機で対応

(オ) 多機能照明器具

停電時の避難所の通路やトイレ等の照明として多機能LEDライトを備蓄する。

【対象】

避難所のうち一次及び二次避難所に配備

【備蓄目標】

避難所当たり 10 個として備蓄する。

$$(12 \text{ 箇所}^{\text{①}} + 14 \text{ 箇所}) \times 10 \text{ 個} = 260 \text{ 個}$$

④ 一次避難所 13 箇所のうち輝北ふれあいセンターは太陽光蓄電池で対応

④-1 衛生用品（衛生管理）

（ア）サージカルマスク

避難所配備要員のマスクや、避難者がマスクを持参しなかった場合に備えてサージカルマスクを備蓄する。

【対象】

避難所要員及び避難者

【備蓄目標】

○避難所配備要員に 1 日 1 枚の 3 日分を備蓄する。

$$66 \text{ 箇所} \times 3 \text{ 人} \times 3 \text{ 日分} = 594 \text{ 枚}$$

○避難者に 1 日 1 枚の 3 日分を備蓄する。

$$1,600 \text{ 人} \times 1.2 \times 3 \text{ 日分} = 5,760 \text{ 枚}$$

$$594 \text{ 枚} + 5,760 \text{ 枚} = 6,354 \text{ 枚} \approx 6,500 \text{ 枚}$$

（イ）体温計（非接触型）

避難所の受付で避難者のスクリーニングを行う際に使用する非接触型の体温計を備蓄する。

【対象】

全ての避難所に配備

【備蓄目標】

各避難所当たり 1 個を備蓄する。

$$66 \text{ 箇所} \times 1 \text{ 個} = 66 \text{ 個}$$

（ウ）アルコール手指消毒液（ポンプ式）

避難所や避難スペースに入室する際に使用するポンプ式の手指消毒液を備蓄する。

【対象】

全ての避難所に配備

【備蓄目標】

各避難所当たり 4 個を備蓄する。

内訳：受付 1 個、避難スペース 2 個、分離室 1 個の計 4 個

$$66 \text{ 箇所} \times 4 \text{ 個} = 264 \text{ 個}$$

（エ）共用部分用消毒液（スプレー式）

避難所のドアノブや手摺り、トイレなどの共用部分の消毒清掃に使用するスプレー式の消毒液を備蓄する。

【対象】

全ての避難所に配備

【備蓄目標】

各避難所当たり4個を備蓄する。

内訳：受付・避難スペース・廊下等用1個、男子トイレ用1個

女子トイレ用1個、多目的トイレ用1個の計4個

$$66 \text{ 箇所} \times 4 \text{ 個} = 264 \text{ 個}$$

(オ) 消毒液（補充用）

アルコール手指消毒液や、共用部分消毒液が不足する場合に備えて補充用の消毒液を備蓄する。

【対象】

全ての避難所に配備

【備蓄目標】

各避難所当たり2ℓを備蓄する。

$$66 \text{ 箇所} \times 2 \text{ ℓ} = 132 \text{ ℓ}$$

(カ) 手洗い用せっけん

避難所入室時やトイレ使用後などに手洗い時に使用するせっけんを備蓄する。

【対象】

全ての避難所に配備

【備蓄目標】

各避難所当たり3個を備蓄する。

内訳：男子トイレ1個、女子トイレ1個、多目的トイレ1個の計3個

$$66 \text{ 箇所} \times 3 \text{ 個} = 198 \text{ 個}$$

(キ) ペーパータオル

避難所配備要員が共用部分を定期的に消毒作業する場合に使用するペーパータオルを備蓄する。

【対象】

全ての避難所に配備

【備蓄目標】

清掃箇所の内訳：受付1箇所、避難スペース1箇所、分離室1箇所

男子トイレ1箇所、女子トイレ1箇所、多目的トイレ

1箇所の計6箇所

清掃回数の内訳：午前6時から午後10時までの2時間おきに10回
避難所ごとの内訳：6箇所×10枚×10回÷200枚入り=3箱
66箇所×3箱×3日分 = 594箱 ≒ 600箱

(ク) 床清掃モップ

避難所配備要員が共用部分の床を定期的に消毒作業する場合に使用するモップを備蓄する。

【対象】

全ての避難所に配備

【備蓄目標】

各避難所当たり2本を備蓄する。

66箇所×2本 = 132本

(ケ) ゴム手袋（使い捨てタイプ）

避難所の共用部分の消毒清掃時の対応が必要となった場合に備えて、ゴム手袋を備蓄する。 ※左右兼用で2枚1組

【対象】

避難所配備要員

【備蓄目標】

○消毒清掃時：消毒清掃1回当たり2枚1組を10回分備蓄する。

66箇所×10回×2枚×3日分 = 3,960枚

④-2 衛生用品（感染症予防）

(ア) フェイスガード

感染疑いのある避難者の対応が必要となった場合に備えて、フェイスガードを備蓄する。

【対象】

避難所配備要員

【備蓄目標】

各避難所配備要員当たり1個を備蓄する。

66箇所×3名 = 198個

(イ) 防護服（ディスポウェア）

感染疑いのある避難者の対応が必要となった場合に備えて、防護服を備蓄する。

【対象】

避難所配備要員

【備蓄目標】

各避難所配備要員当たり1着を備蓄する。

$$66 \text{ 箇所} \times 3 \text{ 名} \times 3 \text{ 日分} = 594 \text{ 着}$$

(ウ) ゴム手袋（使い捨てタイプ）

感染疑いのある避難者の対応が必要となった場合に備えて、ゴム手袋を備蓄する。 ※左右兼用で2枚1組

○感染疑い者の対応時：避難所配備要員当たり2枚1組を3日分備蓄する。

$$66 \text{ 箇所} \times 3 \text{ 名} \times 2 \text{ 枚} \times 3 \text{ 日分} = 1,188 \text{ 枚}$$

(エ) シューズカバー（使い捨てタイプ）

感染疑いのある避難者の対応が必要となった場合に備えて、シューズカバーを備蓄する。 ※左右兼用で2枚1組

【対象】

避難所配備要員

【備蓄目標】

避難所配備要員当たり2枚1組を3日分備蓄する。

$$66 \text{ 箇所} \times 3 \text{ 名} \times 2 \text{ 枚} \times 3 \text{ 日分} \div 50 \text{ 枚入り} = 23.76 \text{ 箱} \div 24 \text{ 箱}$$

3 整備（購入）計画

備蓄目標で定める数量の備蓄品目を計画的に整備（購入）することとする。なお、令和6年度については、能登半島地震災害を受け、当初、令和7年度で到達予定であった目標数量を1年間前倒しし、令和6年度中に整備（購入）することとする。整備後は保存期間等を考慮してローリングストックを活用した更新を行うこととする。

なお、保存期間が残り1年未満となった食料及び水については、市の総合防災訓練時に配布するとともに、要望に応じて自主防災組織等の訓練や出前講座の際に配付する。

さらに、市の様々なイベントで配布することによって市民の防災意識の高揚を図るとともに、防災教育の一環として、小・中学校への配布を検討する。

4 家庭内備蓄について

家庭内備蓄の意義や必要性について、防災マップや広報誌、自主防災組織での防災訓練や出前講座等を通じて、市民に対して継続的に広報を行っていくこととする。

家庭内備蓄の広報に際しては、3日分以上の食料や1人1日3ℓ以上の飲料水の備蓄を呼びかけていくとともに、災害発生時にすぐに取り出せる場所に保管するよう併せて呼びかけていく。

[家庭で用意することが望ましいもの]

○食料等（※3日分以上）

主食	アルファ化米・レトルト食品（白米、白粥、五目御飯など）・米・インスタント麺・スパゲッティ・アレルギー対応食 など
主菜・副菜	缶詰（魚介類、肉類、野菜類、シチュー類）、レトルト食品（カレー、パスタソース）乾燥食品（切り干し大根、干し椎茸、高野豆腐、ひじき、わかめ、昆布 など）
汁物	スープ類（みそ汁、わかめスープ、コーンポタージュ など）
調味料	砂糖、塩、みそ、しょうゆ、コンソメ など
嗜好品	あめ、チョコレート、ビスケット、果物缶詰、ふりかけ など
飲料水	ミネラルウォーター、お茶、スポーツドリンク、野菜ジュース、スキムミルク など

○水（※1人当たり1日3ℓ以上）

○資器材等

携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池、軍手、タオル、ウェットティッシュ、使い捨てカイロ、ばんそうこう、医薬品 携帯トイレなど

5 企業内備蓄について

大規模災害が発生した場合、消防・自衛隊等の行政機関は、道路の渋滞や多数の出動要請等により即座に企業等からの救援要請に対応できるとは限らない。

このため、企業等は、ライフラインの復旧にめどが立つ3日分程度の備蓄品を確保し、必要であれば、安全が確認できるまでの間、会社施設内に社員を待機させることが可能となるようにする必要がある。

また、所有する施設の耐震性を強化するとともに収納棚等の転倒防止などにも取り組み、社員等の安全確保にも努める必要がある。

[企業等で用意することが望ましいもの]

○食料・飲料水 3日分以上

○資器材等

毛布、簡易トイレ、医薬品、ラジオ、乾電池、懐中電灯、ヘルメット、軍手など

6 流通備蓄について

流通業界等の業者と協定を締結し、災害時に、必要な物資を調達する「流通備蓄」を推進する。

現在、食糧や水、生活必需品、日用品雑貨、資器材等に関して市内にある業者等と協定を締結している。（下記の「応急生活物資等に関する協定一覧」を参照）

今後も協定の締結を推進し、流通備蓄がいざというときに有効に機能する体制をとっていく。

● 応急生活物資等に関する協定一覧

協定名	内容	協定先
災害時における物資供給に関する協定	飲料水、日用品等の供給	イオン九州株式会社
災害時における物資供給に関する協定	飲料水、日用品等の供給	株式会社ナフコ
災害時における物資の供給に関する協定	飲料水、日用品等の供給	株式会社きたやま
災害時等における協力に関する協定	飲料水、日用品等の供給 駐車場用地の提供	NPO法人コメリ 災害対策センター
災害時における福祉用具等物資の供給等に関する協定	介護用品、衛生用品等の福祉用具の供給	一般社団法人 日本福祉用具供給協会
災害時における救援物資提供に関する協定	飲料水の提供	高原ミネラル株式会社
災害時の物資の供給に関する協定	段ボールベッド、段ボール等の供給	日之出紙器工業株式会社 Jパックス株式会社
災害時における応急生活物資(LPガス等)の供給に関する協定	LPガス、ガスコンロ等の供給	鹿児島県LPガス協会大隅支部
災害時におけるレンタル機材の提供に関する協定	仮設トイレ、発電機等の提供	第一機械産業株式会社

7 救援物資について

本市で備蓄する物資を補完するために、自治体や企業・団体等からの救援物資を活用する。

また、本市で備蓄する品目以外の物資が必要となった場合は、相互応援協定を締結した自治体等に物資提供の協力要請を行うものとし、物資の発送にあたっては単品梱包とし、内容・数量をラベル表示してもらう。

さらに、大規模災害時では救援物資が大量に届けられ、その開封・仕分け作業等に時間と人員を要することから、マンパワーを確保するため相互応援協定を結んだ自治体やボランティア等への応援要請を行うこととする。

●物資等の相互応援に関する協定一覧

協定名	内容	協定団体
鹿児島県及び県内市町村間の災害時相互応援協定	物資及び資器材の提供、職員派遣	鹿児島県、県内市町村
災害時における相互応援に関する協定	資器材の提供、職員派遣	神奈川県綾瀬市
災害応援協定	給水活動	肝属地区水道協議会
大規模災害時における県物資拠点の開設等に関する協定	県物資拠点の開設及び運営支援	鹿児島県

8 備蓄倉庫について

備蓄物資を効率的に運搬・配布できるようにするために、集中備蓄倉庫に加えて、各総合支所等への分散配備を行い、避難所等への分散配備をすすめる。

さらに、今後、備蓄品目、保管場所、その管理方法等を関係機関と調整・協議し、検討する。

(1) 集中備蓄倉庫

各地区への備蓄物資を補完・補充するとともに、避難者が多い避難所へ直接、備蓄物資を運搬・配布するため、集中的に備蓄物資を配備する。

● 集中備蓄倉庫一覧

備蓄倉庫名	所在地
大始良防災倉庫	鹿屋市田淵町 1475 番地 4
西原防災倉庫	鹿屋市西原 3 丁目 9 番 6 号
新川備蓄倉庫	鹿屋市新川町 142 番地 8
水防センター	鹿屋市打馬二丁目 6728 番地 9

(2) 分散備蓄倉庫

災害時において、すみやかに備蓄物資の運搬・配布ができるよう、各総合支所や各地区の避難拠点施設に備蓄物資を配備する。

● 分散備蓄を行う施設一覧

区名	備蓄施設名	所在地
鹿屋地区	鹿屋市武道館	鹿屋市向江町 29 番 1 号
	東地区学習センター	鹿屋市新川町 114 番地 1
	勤労者交流センター	鹿屋市札元一丁目 21 番 7 号
	西原地区学習センター	鹿屋市西原二丁目 2 番 3 号
	田崎地区学習センター	鹿屋市川西町 3603 番地 1
	大始良中学校体育館	鹿屋市田淵町 987 番地
	花岡学園体育館	鹿屋市古里町 99 番地
	旧高須中学校体育館	鹿屋市高須町 1250 番地
	高隈地区交流促進センター	鹿屋市上高隈町 262 番地 1
串良地区	串良総合支所	鹿屋市串良町岡崎 2081 番地
	串良平和アリーナ	鹿屋市串良町有里 4831 番地 3
吾平地区	吾平総合支所	鹿屋市吾平町麓 3317 番地
	コミュニティセンター吾平振興会館	鹿屋市吾平町麓 3408 番地 1
輝北地区	輝北総合支所	鹿屋市輝北町上百引 3914 番地
	輝北ふれあいセンター	鹿屋市輝北町上百引 2100 番地 1

鹿屋市備蓄計画

令和2年8月 策定

令和6年3月 改定
